

## 気仙沼とともに歩んだ4年間

私たち「気仙沼とともに歩む会さやま」の立ち上げの経緯と、現在までの活動内容を紹介します。狭山青年会議所は東日本大震災直後より行っていた支援活動の道中に偶然に繋がりを持った、気仙沼市立鹿折小学校と交流を続けてきました。2011年は物資の支援を中心に行い、2012年は鹿折小学校の子ども達10名と校長先生・保護者12名を狭山の入間川七夕まつりに招待し、狭山の子ども達と交流する事業「鹿折－狭山 絆の旅第一章」を開催しました。そして翌年の2013年に、支援活動をより継続的に行うために、

狭山青年会議所メンバーや狭山市の茶業界の若手メンバーを中心に、「気仙沼とともに歩む会さやま」という団体を立ち上げました。この年は狭山の子ども達が気仙沼の「みなと祭り」に参加し、子ども達どうしの交流事業「鹿折－狭山 絆の旅第二章」を開催しました。鹿折と狭山は約500kmの距離がありますが、交流事業を通じて心の距離が近くなったと感じる3年間でした。



絆の旅第二章 鹿折小学校にて

一昨年2014年は鹿折小学校の学校行事「修学旅行」として、39名の子供たちを狭山に招待しました。そして昨年も、引き続き6年生53名の子供たちを「修学旅行」として狭山に招待しました。



感謝の集いにて歌声を披露

ホンダ工場の見学や入間基地での航空自衛隊の皆様とお茶揉み体験を通じた交流、一昨年と同じく狭山市文化団体联合会や狭山市民美術協会より手作りのプレゼントを、子供たちに贈る事出来ました。

イオン狭山店で開催した感謝の集いでは、小谷野市長をはじめとする行政関係者や各支援団体、多くの市民の皆様の前で、鹿折小学校の子供たちから支援に対する感謝の想いを込めた歌を披露してもらいました。

会場は感動の雰囲気にも包まれ、心が一つになったと感じました。2泊3日の修学旅行に参加した子供たちからは「とても楽しかった。また狭山に行きたい」「たくさんの思い出をありがとう」など沢山の感謝の言葉が寄せられ、最高の笑顔を見ることが出来ました。

私達の小さな力ではこの事業を実現することは出来ませんでした。皆様の心のこもった支援があったことが、この事業を達成する大きな力となりました。

メンバーとともに心に誓った「POWER OF SMILE」、笑顔が真の復興への最大の力となる事を信じて、今後も気仙沼の皆様へ心を寄せ続けていきたいと思えます。

ご支援頂きました皆様に心より感謝を申し上げます。

気仙沼とともに歩む会さやま 会長 西山 大輔

### 編集後記

文化祭も終り、ほっとする間もなく新しい年に。寒さ進む中、芸術祭の準備も大詰めです。文団連顧問の大野松茂さんのお孫さんが11月5日に病気で急逝、同じ町内で何かとお世話になった私も告別式に参列。スキーやマーチングバンド、ライフル射撃、大学でも学園祭で奇術で大盛況だった矢先のことと、一番楽しみだった3代目を突然失った心情、如何ばかりか・・・

謹んでご冥福をお祈りします。

(高沢正夫)